

おきげいだいりゅうきゅうげいのうせんこうおーびーかい
■沖芸大琉球芸能専攻OB会について■

おきなわけんりつげいじゅつだいがくりゅうきゅうげいのうせんこう そつぎょうせい
沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の卒業生によって2004年7月に結成。

じしゅきかくこうえん おきなわけんぶんかしんこうかい げいのうこうえんはけんじぎょう こうくさいこうりゅうきぎん
自主企画公演のほか、沖縄県文化振興会のかりゆし芸能公演派遣事業や国際交流基金・

にほんこくさいきょうりょく けんないがい いたくこうえん ちいき しゅつえん
日本国際協力センターの県内外への委託公演や地域のイベントなどへ出演。

おきなわ でんとうおんがく げいのう きょういくけんきゅう たいしょう りゅうきゅうげいのうせんこう まな かいいん おお
沖縄の伝統音楽・芸能を教育研究の対象とした琉球芸能専攻で学んだ会員の多くが、

りゅうぶけんきゅうじょ こてんおんがくけんきゅうじょ ざいせき
琉舞研究所や古典音楽研究所に在籍。

きょうし しはん めんきょ え もの げいのうせんしやう さいこうしやう
教師、師範の免許を得ている者や、芸能選奨、コンクールの最高賞、グランプリ、

しょうらいしやう じゅしやうしや たすうざいせき
奨励賞などの受賞者も多数在籍。

おきなわ こてんげいのう ちゅうしん はばひろ かつどう
沖縄の古典芸能を中心に幅広く活動しています。

しゅつえん
■出演■

おきげいだいりゅうきゅうげいのうせんこうおーびーかい
沖芸大琉球芸能専攻OB会

りゅうきゅうこてんおんがくかんしゅう
■琉球古典音楽監修■

あらかきとしみち おきなわけんりつげいじゅつだいがくじゅんきょうじゅ こくりつげきじょう くみおどりけんしゅうこうし
新垣俊道（沖縄県立芸術大学准教授、国立劇場おきなわ組踊研修講師）

きかくせいさく
■企画制作■

かぶしがいしゃ
株式会社 BOX4628（ボックスよるづや）

がっこうじゅんかいこうえんじぎょう
「学校巡回公演事業」

しょうがっこう ちゅうがっこう ふんかげいじゅつだんたい じつえんげいじゅつ じゅんかいこうえん おこな こども しつ たか ふんかげいじゅつ かんしょう
小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・
 たいけん きかい かくほ こども ゆた そうぞうりょく そうぞうりょく しこうりょく のうりょく やしな
体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、
 しょうらい げいじゅつか かんきやくそう いくせい すぐ ふんかげいじゅつ そうぞう し もくてき
将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

こども じつえんしどうまた かんしょうしどう おこな
ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

じつえん こども さんか くふう おこな
また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

れいわ ねんど がっこうじゅんかいこうえんじぎょう
令和5年度 学校巡回公演事業

おきげいだいりゅうきゅうげいのうせんこう かい
沖芸大琉球芸能専攻OB会

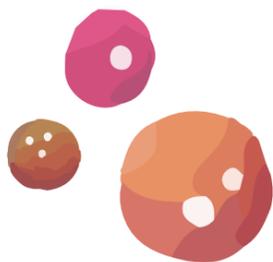
でんとうげいのう
おきなわ伝統芸能

りゅうきゅうこてんおんがく
「はじめての琉球古典音楽

さんしん
三線にチャレンジ」

りゅうきゅうこてんおんがく えんそう かつぎ
琉球古典音楽で演奏される楽器





えんもく 演目



1 「かぎやで風節」 斉唱 八・八・八・六調

かぎやでいふうぶし せいしょう はちはちはちろくちょう
お祝いや喜びの場で最初に演奏される代表的な作品です。

2 琉球古典音楽について紹介

うちなーぐちクイズ・琉歌の紹介

3 「鶴亀節」 三線の独唱 八・八・八・六調

ついるかみぶし さんしん どくしょう はちはちはちろくちょう
縁起の良い「松」、「鶴」、「亀」にあやかり、人々の健康長寿、子孫繁栄を祈願した作品です。

4 「對馬節」 琉球箏曲の独唱 七・五調

りゅうきゅうこてんそうきょく きんせい さつま りゅうきゅう でんらい そうきょく さ
琉球古典箏曲は、近世に薩摩より琉球に伝来した箏曲を指します。
18世紀初頭に、稲嶺盛淳が薩摩で習い覚え、琉球に持ち帰ったのをはじめに、伝来されたとされています。

5 琉球舞踊「浜千鳥」 雑踊り 八・八・八・六調

りゅうきゅうぶよう ちぢゅやー ぞううどうい はちはちはちろくちょう
ひとり故郷を後にして暮る郷愁の思いを、浜辺で哀しそうに鳴く千鳥の姿に映し重ねた作品です。



りゅうきゅうこてんおんがく 琉球古典音楽とは？

りゅうきゅうこてんおんがく
琉球古典音楽は、かつて琉球王朝の士族たちが中心になって継承し、現在に伝承されている伝統音楽です。これらは、一四世紀末から一五世紀に中国から伝わったとされる三線をはじめ箏や笛、胡弓、太鼓なども伴奏楽器に加えて発展しました。特に三線は、弾きながら歌うもので、あわせて「歌・三線」とも呼ばれ、琉球古典音楽の中心となっています。

6 楽器紹介

7 「瀧落菅攪」 器楽演奏

たちうとっしすいがち きがくえんそう
「瀧落菅攪」は、琉球舞踊の古典舞踊の出入りに演奏される歌唱を伴わない器楽曲です。男踊りにふさわしい勇壮な曲調と軽快な節まわしで舞台を一段と盛り立てます。

8 装束着付け体験

9 「きらきら星」 三線にチャレンジ演奏披露 七・五調

10 組踊「波平大主道行口説」 二才踊り 八・八・八・六調

りゅうきゅうおおく こくげき くみうどうい ちゅうしんみがわりぬまち さくちゅう いちばめん りゅうきゅうぶよう
琉球王国の国劇である組踊「忠臣身替の巻」の作中にある一場面を琉球舞踊として独立させた作品です。

11 校歌斉唱

さんしん こと ふえ こきゅう たいこ ばんそう あ
三線、箏、笛、胡弓、太鼓の伴奏に合わせて、みなさんで歌いましょう。

